

地域を救う救急医療体制のモデルケースを構築

脳卒中治療のエキスパートが、救命から社会復帰までを包括的にケア

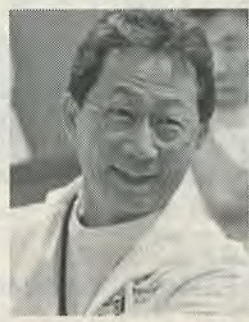
救命の鍵を握る時間の戦い  
「プレホスピタルレコード」の導入

命にかかわる病気であると同時に、治療までの時間が救命の分水嶺となる脳卒中。兵庫県明石市で、脳卒中をはじめとする脳神経外科を専門に治療してきた大西脳神経外科病院の大西英之院長は、地域における脳疾患急性期医療の改善に努めてきた。



理事長・院長 大西 英之

おおいしひでゆき  
奈良県立医科大学  
奈良県立医科大学  
臨床教授。医学博士。2000年12月に大西脳神経外科病院を開院。日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医。第7回パンパシフィック脳神経外科学会会長、第18回日本臨床脳神経外科学会会長など。



理事・副院長 脳神経外科主任部長  
回復期リハビリセンター長 久我 純弘

同院では、救急隊員が疾患を選別、専門病院に搬送するための「プレホスピタルレコード」を日本で初めて導入。運動麻痺、痙攣、脳卒中スケールなどの項目から、救急隊との連携性を高めている。

脳梗塞に有効な治療として認知が進んでいる血栓溶解薬治療（tPA治療）だが、治療適応は発症後45時間に限られる。急性期の救命医療においては、救急隊、地域病院などとの連携が結果に直結する。

豊富な知見と  
高水準の治療技術

脳神経外科に特化した同院がスピーディに治療体制を整えられることは、即時性が求められる脳卒中治療にとって大きなメリットだ

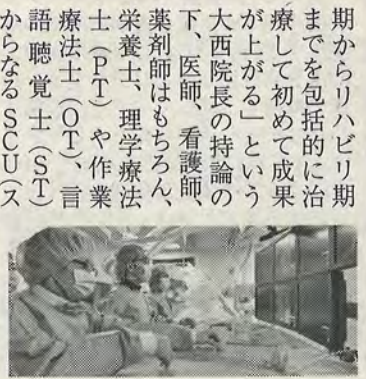


脳神経外科部長  
脳血管内治療科主任部長  
脳卒中センター長 大西 宏之

急性期から回復期  
切れ目のない治療を実現

回復期の患者に対するケアにも余念がない。「脳卒中治療は、急性

期からリハビリ期までを包括的に治療して初めて成果が上がる」という大西院長の持論の下、医師、看護師、薬剤師はもちろん、栄養士、理学療法士（PT）や作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）からなるSSCU（ストロークケアユニット）を構成し、患者一人ひとりにチームで治療に当たっている。リハビリが長引く高齢者に多い肺炎罹患、後遺症患者の転倒、骨折を大幅に防ぐなど、同院でも目覚ましい効果を挙げている。



突然襲ってくる脳卒中は、誰もが備えておかなければいけない重要な疾患。大西脳神経外科は、地域の脳卒中治療の水準を高かめ、少しでも多くの人の命を救うために今日も真摯に治療を続けている。

大西脳神経外科病院



〒674-0064  
兵庫県明石市大久保町江井島1661-1  
TEL.078-938-1238  
受付時間：8:30～11:30 13:30～16:30  
休診日：土・日・祝・年末年始  
※救急医療は24時間対応  
http://www.onc.akashi.hyogo.jp/